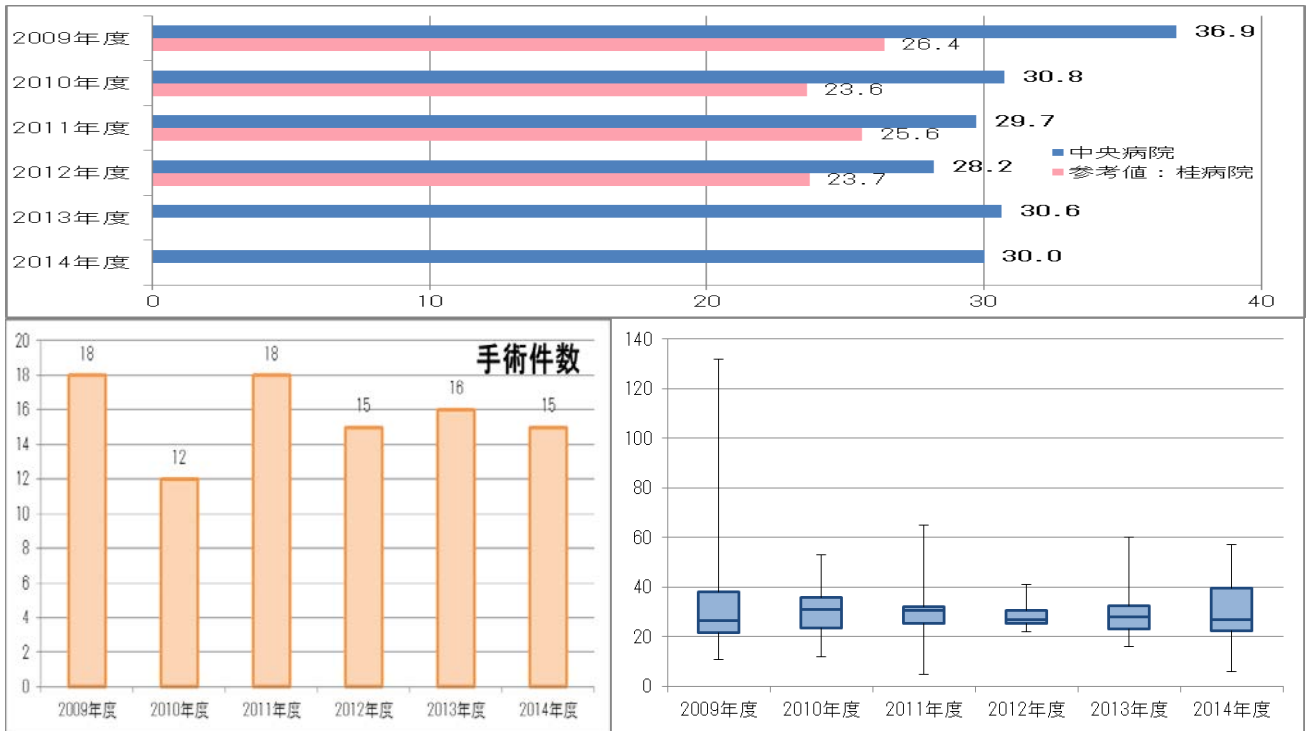


# 診療情報管理委員会ニュース

(臨床指標報告)

VOL. 16 2015年7月 診療情報管理委員会

## 【大腿骨頭置換術後在院日数】



### ※DPC データを使用

分子：分母対象例の術後在院日数（退院日－手術日）の総和

分母：退院患者の内、入院中に「大腿骨頭の置換術」を受けた患者の数（※「挿入術」は除外）

### 【意義】

- 医療の質の評価。術後管理の評価として在院日数を検証する。
- 術後に、合併症・続発症が発生すれば在院日数は長くなるため、短期での退院は術後管理が適切に行われたと考えられる。

### 【結果・考察】

- 在院日数の推移を見ると術後1ヶ月前後での退院、対象手術実施数はひと月あたり1.3件となっている。
- 2014年度では、術後日数が最短で6日・最長で57日と幅があるが、術後のリハビリ実施や退院調整なども結果に大きく関わる為、長期入院となったケースが一概に悪いとは言えない。術後の合併症・続発症の予防はもちろん、適切な状態・タイミングでの退院実施を行う事が重要となる。
- 桂病院と比較すると、当院は在院日数が5日程長いことが分かる。また、当院を経年的に日数比較すると、増加・減少などの傾向があまりないため、日数短縮の改善策の一つとして、適用パスの見直しなどが挙げられる。また、明らかに日数が突出しているケースに関しては、個別での要因検討が必要になると思われる。